

ながさき
静岡・長崎遺跡(四区)

- | | | |
|---|---------------|--------------------------|
| 1 | 所在地 | 静岡県清水市長崎 |
| 2 | 調査期間 | 一九八八年(昭63)四月～一九八九年(平1)三月 |
| 3 | 発掘機関 | 勸静岡岡埋蔵文化財調査研究所 |
| 4 | 調査担当者 | 伊藤 豪・足立順司・矢田 勝・村瀬隆彦 |
| 5 | 遺跡の種類 | 集落跡・水田跡・中世河道跡 |
| 6 | 遺跡の年代 | 弥生時代～一三世紀 |
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 | |

長崎遺跡は、清水市街地の西北約四・五km、巴川中流域に位置している。調査は、一般国道静清バイパス（長崎地区）建設に伴うもの



で、銚子市埋蔵文化財調査研究所が、一九八七年度～一九八九年度・一九九二年度に実施した。

調査の結果、弥生時代から古墳時代前期の水田、掘立柱建物群、墳丘墓、祭祀遺構、奈良時代後半から平安時代中期の集落、一二世

紀末から一三世紀の河道、橋状遺構が認められた。河道は幅約四・五m、橋は下部構造が残存しており、橋台には直径一五cmの杭を四本打っている。橋の規模は長さ五m、幅二・七mと推定している。

木簡は四区で検出した前述の河道内から出土した。この河道内五〇mの範囲から中世陶磁器・銅碗・かわらけ・金剛草履などの遺物が出土し、整理用コンテナに土器約一〇〇〇箱、木器・木製品約一〇〇〇箱に上る。年代は一二世紀末―一三世紀初頭と考えられる。なお、橋状遺構の上流に二体、下流に三体の馬遺体が出た。塔婆の出土箇所は、この馬のそばであり、馬かその騎乗者に伴う供養品と理解している。

8 木簡の釈文・内容

- | | | | | |
|-----|------------------|---|----------------|-----|
| (1) | 「 \vee 南無□□」 | ○ | (235) × 19 × 3 | 061 |
| (2) | 「 \vee 南無五大菩薩」 | ○ | 252 × 21 × 2 | 061 |
| (3) | 「 \vee 南無五大菩薩」 | ○ | (247) × 21 × 2 | 061 |
| (4) | 「 \vee 南無□」 | | 310 × 35 × 3 | 061 |
| (5) | 「 \vee 南無大日」 | | (155) × 31 × 3 | 061 |
| (6) | 「 \vee 南無」 | | (197) × 21 × 4 | 061 |

(7)

「安□□□□□ふ ちやくくら
つゝら□□」

264×23×4 019

(1)～(3)は七枚を木釘で止めた七本塔婆で(写真参照)、うち六枚に「南」から始まる文字や墨痕などが認められた。积文はこのうち文字の明瞭な三点のみ掲げた。形態は下端を剣先状に切り、上端を山型に尖らせている。

(4)は下端を剣先形とし、上端には切込みを入れて二本の圈線を描き、その下位に金剛界と胎藏界の大日如来の種子を書いている。

(6)は下端を欠くが、南無の二文字が积読できた。

(7)は仮名書きで、読めない部分が多いが、仮名使用と字配りから和歌を書いたと判断される。形態は下端を剣先とせず長方形を呈する。

このほか、墨痕の認められない塔婆類も一〇点ほど出土している。また、直径三・九cm、高さ一・一cmの佐波理小椀(黄銅製)が出土しており、七本塔婆の存在と合わせて、四十九日までの追善供養などのきわめて丁寧な供養が行なわれていたことが考えられる。

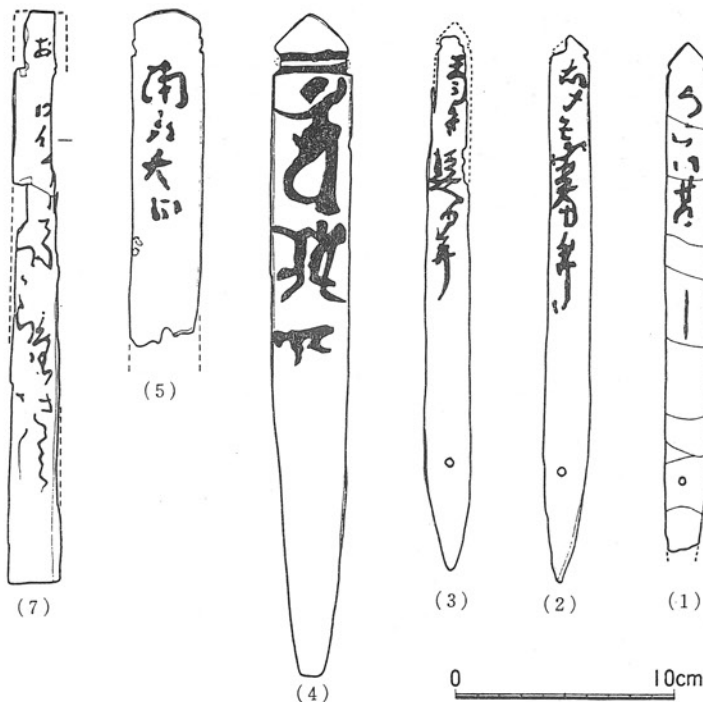
塔婆発見箇所の北側約三〇〇mに梶原堂がある。この堂宇は、一九九九年(正治元)、鎌倉追放を受けた梶原一族が、長崎遺跡周辺の御家人、吉川・渋川一族の追撃を受けて自刃した梶原景時を供養したものである。全国的にみても、長崎遺跡の馬の供養は特異な例といえる。また、馬埋葬四と呼称した遺構では刀の鏢片が出土しており、梶原堂の存在と関連させ、塔婆は梶原合戦に伴う人物に対する

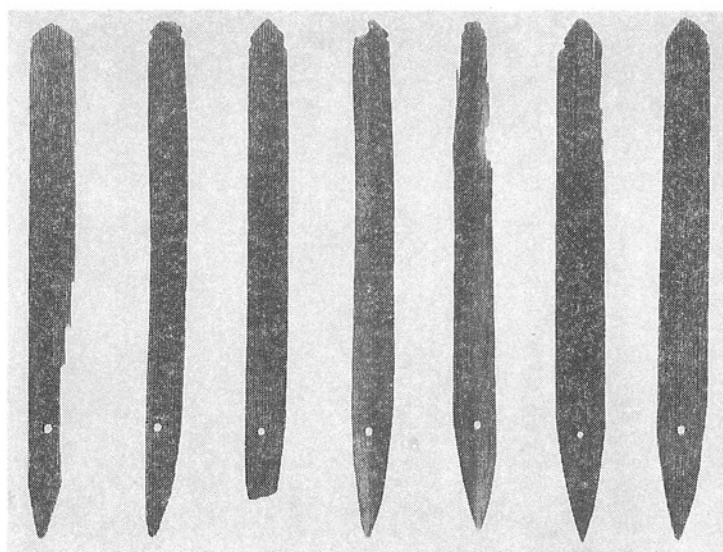
供養とすれば、理解しやすいのではないかと考えている。

9 関係文献

静岡県埋蔵文化財調査研究所『長崎遺跡』Ⅱ(一九九二年)

(足立順司)





(1) (2) (3)

七本塔婆



(4)

埼玉・八幡前・若宮遺跡
はちまんまえ わかみや

1 所在地 埼玉県川越市市場

2 調査期間 第一次調査 一九九三年(平5)一〇月～二月

3 発掘機関 川越市遺跡調査会

4 調査担当者 田中 信

5 遺跡の種類 集落跡・駅家跡か

6 遺跡の年代 八世紀～一〇世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

八幡前・若宮遺跡は、川越市街地から西方四km、入間川左岸の入間台地南東斜面に所在する。



(川越)

今回の調査は共同住宅建設に伴う発掘調査で、調査面積は九五一㎡と限られた範囲であったが、遺跡の性格をよく示す遺構や遺物の発見により、貴重な資料を得ることができた。

発見された遺構は、八世紀から九世紀の土坑群が主